

住民総参加によるイノシシの被害防止対策

1 要旨

イノシシの出没による、農作物の被害に悩まされている周防大島町の出井地区において、住民自らが集落環境調査を行い、イノシシ被害の状況などについて情報の共有化を図るとともに、侵入防止柵や箱わなを設置することとなった。

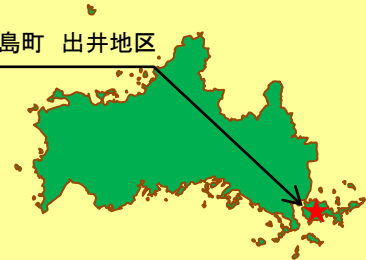
平成29年度には、箱わなを設置して捕獲活動を開始し、平成30年度からは、侵入防止柵の設置に取り組み、令和元年度に完成した。

今後のイノシシ被害の減少が期待される。

2 地区の概要

地区名	大島郡周防大島町 出井地区
戸数	88戸（うち、農家80戸）
耕作面積	14.8ha
主な作物	果樹、水稻
加害獣種	イノシシ
対策実施年度	平成29年度～令和元年度

周防大島町 出井地区



3 被害の状況と課題

- 数年前から、地区内でイノシシが頻繁に目撃されるようになり、農作物の被害が目立つようになった。特に柑橘への被害が多く、果実を食べるだけでなく、枝を折るなど樹木への被害も発生している。
- 居住地の近くまでイノシシが出没することも多々あり、住民生活に影響を及ぼしている。
- 鳥獣被害対策に詳しい住民が少なく、地区で鳥獣被害対策を牽引するリーダーがいなかった。

4 取組内容

(1) 集落環境調査を実施し、関係者と対策を協議

- 町の紹介で、「鳥獣害に強い集落づくり事業」を活用し、侵入防止柵とイノシシ用箱わなの設置を検討した。
- 被害の実態やイノシシの行動について確認し、情報の共有化を図るとともに、対策の検討資料として、県、町職員と住民が一体となって、被害を受けている田畑や、獣道、耕作放棄地などを地図にとりまとめ、対策を協議した。

(2) 実践活動

- 主な取り組みとして、平成29年度は猟友会と連携してイノシシの捕獲対策を実施するため、獣道を中心にイノシシ用箱わなを設置した。
- 平成30年度から2カ年で集落と山林との境に一体的に侵入防止柵を設置した。
- 令和元年度に開催された現地見学会に協力し、町内外からの参加者に対し、取組を紹介した。



平成29年度に設置した
イノシシ捕獲用箱わな



平成30年度に設置した
侵入防止柵



地域ぐるみで行う鳥獣被害
防止活動現地見学会

5 取組の成果

- 平成30年度から令和元年度にかけて、侵入防止柵の設置に取り組んだ。令和3年度は令和2年度と比較し、イノシシの捕獲頭数・被害額はともに減少した。
- 捕獲については、集落の住民で餌による箱わなへの誘因を行い、捕獲時は集落内の猟友会員が止め刺し及び処分を行うとともに、侵入防止柵の管理は、月1回の見回りを行い、破損箇所が見つければ補修するなど、集落ぐるみの取組が行われている。

(千円、頭)

イノシシ	平成29年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実施前	実績	増減	実績	増減	実績	増減
被害額	811	80	▲ 731	39	▲ 772	30	▲ 781
捕獲数	11	20	9	63	52	30	19

6 地区代表者のコメント

他人任せではなく、みんなで協力して対策に取り組んだ。今後とも、イノシシ被害防止のため、皆で協力して取り組んでいきたい。

7 今後の取組 (柳井農林水産事務所)

周防大島町の他の地区においても、同様な取り組みに対する気運が高まり、令和元年度に活動を開始するなど、取組の広がりに寄与した。

今後とも集落ぐるみでの取組について、普及啓発を進め、地域の中で連携しながら鳥獣被害防止対策を進めていく。